

福岡県産酒類の更なる輸出拡大に向けた取組

香港事務所長 山本 大祐

1. 日本からの酒類の輸出について

香港は親日的な都市であり多くの日本産食品が輸入されている。また、輸入する際にアルコール度数30%以下の酒類は免税扱いとなることから、多くの日本酒が香港に輸出されており、2024年の日本から香港への日本酒の輸出額は51億1,680万円と、中国、米国に次いで3番目の輸出先¹となっている。さらに農林水産省は、香港への日本酒の輸出額を2030年までに90億円とする目標を発表している²。一方で、日本各地の様々な日本酒が香港で販売されており、競争が激化している。

このような状況下で、当事務所では日本酒の販路拡大の取組に加えて、日本酒以外の新しい酒類の販路拡大も実施している。本稿ではその取組と、香港の事業者からヒアリングした販路拡大のためのポイントを紹介する。

2. 福岡県産酒類の販路拡大の取組

(1) Hong Kong International Wine & Spirits Fair

2025年11月に開催された酒類の展示会に出展した県内の酒類製造会社に対して、当事務所から香港の酒類に関する流通状況を説明するとともに、当事務所が関わる香港のディストリビューター（一次卸・流通業者）を展示会に招くなどの販売促進サポートを行った。

特に、香港へ輸出されていない酒類製造会社の商品については、新規性があり、ディストリビューターの高い関心が予想されることから、積極的にPRを実施した。その結果、KYOH0 JAPAN株式会社の巨峰ワインと株式会社天郷醸造所のクラフトサケについて、香港大手ディストリビューターによる取り扱いが決定し、1月から輸出が開始された。



【写真1】大規模展示会でのPRの様子

¹ JETRO HP: <https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2025/cb3bbe11d718005b.html>

² 農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略: <https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/progress/>

(2) Oisix Hong Kong Co., Ltd. (オイシックス香港) 福岡フェア

香港でオンラインにて日本産食品を販売する、オイシックス香港と協同で2月下旬に福岡フェアを開催した際、これまでに輸出実績がない片岡酒造(福岡県東峰村)の日本酒の販売に向けた調整を行った。

当事務所として注力したことは、片岡酒造の日本酒の味だけでなく、平成29年7月九州北部豪雨で被災された片岡酒造が村の皆様からの支援を受けて復興したというストーリーも一緒に売り込むことによって、商品価値を向上させたことである。

香港では、日本各地の様々な日本酒が販売されているが、それらの商品との差別化を図るには、その商品が誕生した背景などをPRすることが効果的である。親日家が多い香港人は、日本の文化に触れることで、商品への興味を深め、購買意欲を高めることが期待できるであろう。



【写真2】オンラインでの販売の様子

3. 酒類の香港への輸出を成功させるために

既に多くの日本酒が流通する香港で販路拡大するのは容易ではない。一方、香港で日本産酒類を扱う関係者は、まだ知らない酒類を探している。

上記のように、当事務所では、新規性やストーリーを重視してPRを行ったが、日本酒以外の日本産酒類の販路拡大に取り組む際のポイントについて、当事務所が良好な関係を構築している大手ディストリビューターの経営者(香港人)にヒアリングを実施した。

最も大切なことは、現在の香港で多く流通している日本酒やワインの特徴をよく理解したうえで、PRをすることであるようだ。香港では、様々な料理に合うようなすっきりとした味わいで、かつ、後味がフルーティなものが多く流通している。それらの味と比較して自社の酒類がどのような特徴を持ち、現在流通しているものよりも優れているのかを説明することが求められる。

また、日本の各自治体を実施しているこれまでの酒類輸出の取組では、日系のディストリビューターに頼ることが多かったが、それでは現地資本レストランに新規に輸出することが難しい。新たな販路として現地資本のディストリビューターへのアプローチをしない限り、限られたネットワークの中でのパイの奪い合いにしかならないという。

現地資本のディストリビューターのネットワークを活用しての酒類の輸出にご関心があれば、ぜひお気軽に当事務所にお問い合わせいただきたい。